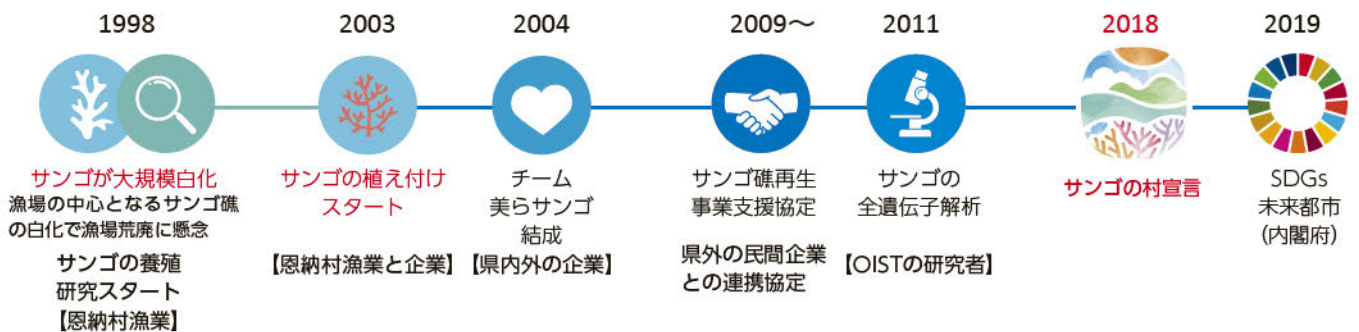


「サンゴと人にやさしい」取り組みを毎月紹介します

1998年ごろサンゴの大量白化をきっかけに、海人や漁協の自主的な活動でサンゴの養殖が始まりました。2000年代に入りこの活動に共感した県内外の企業がサンゴの植え付け作業に参加したり、サンゴ礁再生のために基金の設立をするなど様々なパートナーシップが始まり、2011年には沖縄技術科学大学院大学(OIST)でサンゴの全遺伝子を解析するという世界的な研究が発表されました。

このような村内での動きを捉え、恩納村は「サンゴの村宣言」をし、サンゴをキーワードに環境にも人にも優しい地域づくりに取り組んでいます。この取り組みが評価され、2019年には内閣府の「SDGs未来都市」に採択され、現在に至っています。



サンゴの村宣言の取り組み

- サンゴ礁の保全活動
- サンゴにやさしい認証
- サンゴの日Save The Coral プロジェクト
- グリーンフィンズ
- オーバーツーリズム対策
- 小中一貫学校教育プログラム
- 地域教育:UNNA魂PROJECT
- 赤土流出対策プロジェクト
- ベチバー素材の地域循環プロジェクト

- 恩納村ではサンゴの村宣言をしたときに「サンゴの村行動計画」を策定しました。2020年の改訂版に対して、2025年度の時点では概ね7割の事業実施が確認されています。
- 特に左図に示した取り組みは、多くの自治体からも注目され、把握されているだけでもこれまでに国内外から多くの視察がありました。
- 来月からは左の取り組みについても具体的にご紹介し、SDGsとのつながりをお知らせします。



お問い合わせ:企画課 ☎966-1201